

スーパーコンピュータ「富岳」を活用し、 災害発生や被害の予測精度を高度化する

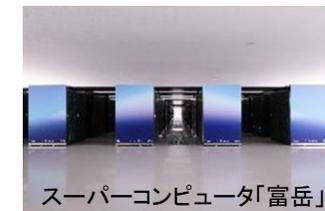
【対策】112 スーパーコンピュータを活用した防災・減災対策

対策概要：巨大地震による長周期地震のシミュレーションによる政府の防災対策への検討に貢献するほか、地震や津波による複合災害、豪雨や台風などの気象現象の高精度かつリアルタイムな予報についての研究開発を実施するため、早期の運用開始に向けて世界最高水準の汎用性のあるスーパーコンピュータ「富岳」の整備を着実に進める。

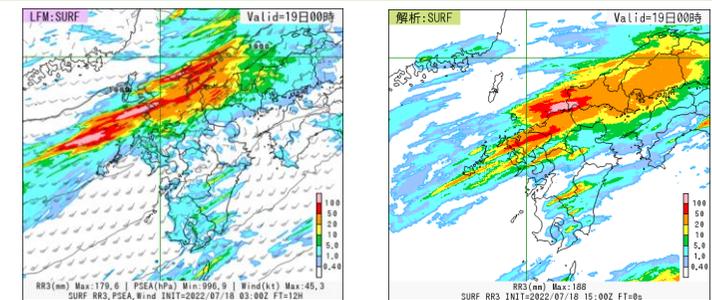
府省庁名：文部科学省

【事例】スーパーコンピュータ「富岳」の開発と早期の成果創出への取組

- 実施主体：国立研究開発法人、大学等
- 実施場所：兵庫県神戸市（「富岳」設置場所）
- 事業概要：地震や津波による複合災害、豪雨や台風などの気象現象の高精度かつリアルタイムな予報等についての研究開発を実施するため、スーパーコンピュータ「富岳」を開発・整備し、令和3年3月より共用。「富岳」の性能を最大限に活用、防災・減災等に資する課題を採択し、世界を先導する研究成果創出に活用している。
- 事業費：約28億円
- 効果：台風や線状降水帯の発生に伴う集中豪雨の予測技術や大規模地震による被害予測精度などの高度化に活用され、**適切な災害対策・災害対応の検討・実施による被害軽減**につながっている。

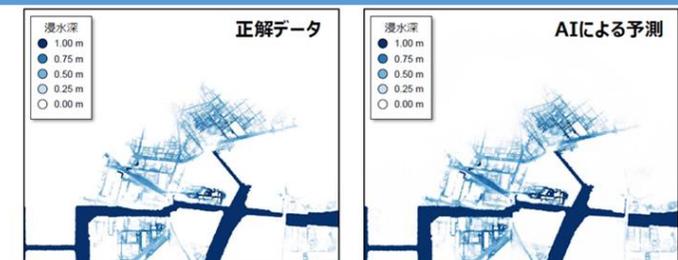


「富岳」で開発中の予報モデル(左)と実際の降雨(右)の比較



画像) 気象庁提供

AIと「富岳」で予測した津波の浸水シミュレーションと実データとの比較



画像) 富士通株式会社提供